

第9章 モデル地区の選定

第9章 モデル地区の選定

9.1 モデル地区選定基準

モデル地区の選定に当たっては、対象となる地域の TA のチーフ及び住民との合意が事業実施の正否の鍵を握ることを強く念頭に置き、先に決定したゾーニングを踏まえて、以下の条件を満たす候補地域を関係各機関との協議のもとに選定した。村落天然資源管理の事業化と成果の早期実現を考慮し、モデル地区の面積は 1,000ha、最大で 5,000ha 程度とした。

- ☆ 保全対策実施の緊急度が高い（土地の荒廃が激しい）地域
- ☆ チーフ、村落首長が保全対策や NGO 活動に理解を示し、協力できる地域
- ☆ 住民の事業への参加意欲が強く、まとまりがある地域
- ☆ 市場へのアクセスが良い地域
- ☆ 所得向上のための活動の機会が多い地域
- ☆ 事業の展示効果が高い地域
- ☆ 土地収用の必要がなく、事業化の実施できる地域

9.2 モデル地区候補地の選定

現地調査の結果や関係省庁との協議の結果、モデル地区候補地として以下のプロジェクトが必要と判断された。各モデル地区候補地の概要及び各モデル地区候補地内で想定される事業コンポーネントは表 9.1 及び 9.2 に示す。

表 9.1 モデル地区候補地の概要

モデル地区候補地	ゾーン名	面積 (ha)	プロジェクト名	想定事業の担当機関名
M1	E	995	半乾燥地IX森林復旧計画	DF, MASAF 植林計画地区
M2	D	2,640	河畔及び村落コミュニティ地区流域管理計画	DF, ADD, DWD
M3	B	3,874	河畔及び村落コミュニティ地区流域管理計画	DF, ADD, DWD
M4	C & D	1,558	村落コミュニティ/丘陵地区植林計画	ADD, DF, MASAF 植林計画
M5	D	1,438	丘陵地区植林計画	DF, ADD
M6	D	678	丘陵地区植林計画	MASAF 植林計画地区
M7	A	1,361	山岳地区植林計画	DF
M8	A	787	山岳地区大規模植林計画	DF, ADD

また、図 9.1 に各々のモデル地区候補地の位置を示すとともに、詳細は Annex A に示す。

表 9.2 モデル地区候補地のおもな事業コンポーネント

モデル地区候補名	おもな事業コンポーネント	維持・管理
M1	苗畑 再植林	DF VNRMC
M2, M3	苗畑 河畔での再植林 村落コミュニティでの再植林 アレイクロッピング 河川法面の保護工 溜池の改修、拡張 生計向上計画 教育・啓蒙活動計画	DF, DWD, ADD VNRMC
M4	苗畑 村落コミュニティでの再植林 アレイクロッピング 溜池の改修、拡張 生計向上計画 教育・啓蒙活動計画	DF, ADD, VNRMC
M5, M6, M8	苗畑 丘陵地での再植林 アレイクロッピング 生計向上計画 教育・啓蒙活動計画	DF, ADD
M7	山岳地域の再植林計画 大規模土壌侵食保全事業	DF

9.3 各モデル地区候補地の評価

先に述べたモデル地区選定基準にしたがって、各モデル地区の選定を評価する。この結果は下表に示すとおりである。M3 がもっとも評価点が高く、M1 がもっとも評価点が低い結果となった。

表 9.3 モデル地区候補地の評価

モデル地区候補地	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
M1	X	X	△	X	△	X	○
M2	△	△	○	○	△	○	○
M3	△	○	○	○	○	○	○
M4	X	○	△	△	○	△	○
M5	X	△	△	X	△	X	○
M6	X	△	△	X	△	X	○
M7	X	△	○	○	○	X	X
M8	X	X	△	X	△	○	○

①土地の劣化 ②生活向上活動の機会 ③インパクト ④アクセスビリティ ⑤コミュニティの自発性
⑥展示効果 ⑦地収用の難易度 評価基準: ○ 良 △ 普通 × 悪い

注: 土地の劣化の評価については×を保全対策の必要性の中庸なもの△を必要性の高いものとした。

図 9.1 モデル地区候補地位置図

